

1. 本園の教育目標
 - ・地域の環境を活かして「元気・根気・勇気」の素地を育むことを目的としている。
 - 1, 心身の健康と善悪を始め、道徳性を育む
 - 2, 基本的な生活習慣やしつけを基盤に、温かい人間関係を育む
 - 3, 地域の人、自然、文化を大切にし心豊かな感性を育む。
2. 本年度の重点目標
 - ① 幼児の育ちを理解する
 - ② 保護者と協働的な関係性を生み出す工夫
3. 評価項目の取組と成果

評価 A：とても良い B：良い C：普通 D：良くない（要検討）

自己評価結果の総括表

| 重点的に 取り組む目標 ① | 評価項目 | 評価指標及び評価結果 | | | | | 総括 評価 | 意見・説明 | 次年度の改善策 | | | |
|---------------------|----------------|------------|----------------------------------|----------|----------|----------------------------|----------|-------|---|--|---|--|
| | | 基準 | 取組指標 | 取組 結果 | 基準 | 成果指標 | | | | 成果 結果 | | |
| 幼児の育ちを理解する | 幼児の年齢や発達に関わり | 4 | 子どもの可能性を見据えて見守る | 3.6 | 4 | 主体的に取り組めるようになる | 3.3 | A | <年少組以上> ・園児は、本物に近い遊びだと夢中になり、思考錯誤をするので環境の中に既製の玩具だけでないものを取り入れるようにするとよかった。 ・園児の興味・関心をより理解するために対話を意識したり、教師が園児とより深く遊びこむようにしていく。 <満3歳児未満> ・子どもが興味や関心を持っている物や成長に合わせた環境作りを行うことで、子どもたちの「やってみたい」という意欲が高まった。 1・2歳児は集中力が短いので、活動の展開を考えて行くことが必要だと感じた。 | <年少組以上> ・子どもたちが夢中になっている姿や、遊びこんでいる姿の写真をもとに、他学年の先生達と子どもの心情や学びを語り合うことで子ども理解を深めたり、子どもの学びの瞬間を捉えなおしたりしていく。 <満3歳児未満> ・様々な素材に触れ、遊び込める環境づくりをする。 ・異年齢交流増やし、異年齢交流を増やしていく。 | | |
| | | 3 | 活動が広がる環境を整える | | 3 | 試行錯誤して活動に没頭する | | | | | | |
| | | 2 | 興味のある遊びを一緒に楽しむ | | 2 | 喜んで活動に参加する | | | | | | |
| | | 1 | スキンシップをとる | | 1 | 信頼関係が育まれる | | | | | | |
| | の発達教師を捉えて学び合いく | 4 | 学びを共有し、保育に活かす | 3.2 | 4 | 目標や課題が明確になる (未来に期待を持てる) | 3 | B | | | ・教職員同士で相手を尊重する意識をもち、園児だけではなく教職員同士も興味を持って関わろうとする。 ・忙しいので、話しにくいと遠慮をしているところも見られるが、プロとして互いに分かり合える努力は必要。又、それぞれ二長けている人がいるので、得意分野を生かした職場づくりをしていくとよい。 ・正規職員は研修に参加する機会はあるが、短時間の職員は研修に参加する機会があまりないので、学びを共有したり、疑問に思ったことは聞いたりするなど、教師間の関係性を構築することも大切だと感じた。 | ・クラスに関わる職員が発達を捉えていくために成長の目安や発達に合わせた手立てを考え、発達に合わせた関わりができるよう、共有する。 |
| | | 3 | 研修に参加したり専門書を読んだりして学びを深める | | 3 | 関わり方を実践し手立てを増やす | | | | | | |
| | | 2 | 先輩に聴く | | 2 | 視野が広がり知識も深まる | | | | | | |
| | | 1 | 子どもを観察する | | 1 | 子どもの実態を知る | | | | | | |
| 重点的に 取り組む目標 ② | 評価項目 | 評価指標及び評価結果 | | | | | 総括 評価 | 意見・説明 | 次年度の改善策 | | | |
| 基準 | 取組指標 | 取組 結果 | 基準 | 成果指標 | 成果 結果 | | | | | | | |
| を保護者と協働的な関係 | 幼稚園のファンを増やす | 4 | PDCAサイクルを意識して常に進化させていく | 3.3 | 4 | 子ども・保護者・先生とのつながりを喜ぶ | 3.5 | A | ・ママ、パパ先生に参加してもらうことで保護者の方と子どものことを共有でき、安心感が繋がったと思う。また、1日一緒に過ごすことで、担任との距離が近くなり、保護者が話しやすく心も軽くなるので、子どもにとっても良い影響に繋がる。 ・同じ趣味の保護者が参加するサークル活動を通して保護者同士も仲良くなり、参加しやすくなったり、子どもの成長を分かち合えたりする良い機会となっていた。 ・サークル活動には祖父母にも参加していただくなど、世代を超えて参加してもらうことで園と相乗効果が生まれると感じたので、来年は検討していきたいと思う。 | ・性格や仕事面などからママ、パパ先生に参加することが難しい方もいた。そういった方も参加できるよう、時間を短くするなど参加しやすい援助をする。 ・カリキュラムや行事に、卒園児を含めた地域を巻き込み、地域の拠点となるようにしていく。 例えば、親子フェスに卒園児を招き、競技をしたり、手伝いサポーターになっていただく。 | | |
| | | 3 | ママパパ先生やサークルなど保護者が保育に参加しやすい方法を考える | | 3 | 幼児理解をし、園と家庭との両輪が回るようになる | | | | | | |
| | | 2 | 子どもの成長を分かち合う (ブログや送迎時の話など) | | 2 | 安心感を持って心を開いて話したくなる(対話する) | | | | | | |
| | | 1 | 笑顔で挨拶する | | 1 | 親しみが持てる | | | | | | |

学校関係者評価委員会の評価

今年度の様々な取り組みを伺い、大変感銘を受けました。特に保護者や地域の方をはじめ、多くの人とのかかわりを実践することで、子ども達が積極的になり豊かな学びに繋がっている様子がよくわかりました。アンケートで保護者の意見を聞いた学校評価に取り組まれたりと、見えないところでも沢山の努力をされている先生方に感謝と尊敬の気持ちでいっぱいです。

学校関係者評価委員
 学校関係者評価委員
 学校関係者評価委員
 学校関係者評価委員

